

高校分科会

■ 基調提案

「青年が育つ授業づくりと学校づくり」 吉田 隆（福井 福井養護学校）

■ 実践提案

「09 ダンス実践報告」 手塚正彦（山梨支部 園芸高校）

■ 参加者の感想（大会速報「かもがわ」より）

・ 高校生・高校体育の現状、これまでの分科会の報告などを聞きました。まだ、学生で現場にいない自分にとっては知らないことだらけでした。吉田先生の授業のレポート、お話も、自分は教師を目指しているのに、違う場にいるように感じてしまいました。でも、太鼓を通しての体を動かす喜びや、みんなで何かをつくり上げていくすばらしさを子どもたちに伝えたくてそういう授業づくりをしているんだなと凄く勉強になりました。そして、子どもの自主性もこういう授業の中で育っていったのかなと思いました。（兵庫・Iさん）

・ 今回のこの太鼓の実践のお話を聞いて、今までの太鼓のイメージが変わった。どちらかというと、伝統や太鼓を叩く技術、文化性を教えるというイメージでしたが、吉田先生のお話で、相手にどう伝えたいかの表現、皆で一体になって叩く気持ちよさを伝えたいと聞き、変わりました。太鼓の教材としての可能性に触れることができ、よかったです。太鼓に限らず教材研究をし、“授業づくり”に励んでいきたいです。（熊本・Sさん）

・ 高校の体育の授業づくりがどのように検討されるのか楽しみに来ました。“体育”ということももっとスポーツ的な筋肉の動かし方等が中心に進むのかと思ったら、授業や学校内の活動を通して子どもたちがどう生きる力を養うか、他の人とのつながり方など、体育と関係のない私でも、凄く勉強になりました。

印象に残ったのは「生徒は可能性である。」という吉田先生の言葉です。生徒を信じ、任せたときに彼らが成長していく姿が心に残りました。それが太鼓や生徒会、スポーツクラブの成果として見られて本当によかったです。（埼玉・Yさん）

・今回初めて分科会に参加してみて、いつも一人でどうすればいいかと考えることが、みんなで意見を出し合い考えることができた。私が実際、生徒に授業するときも、すべて教え込むのではなく、生徒自身に考えさせ、最善の方法を導き出せるように支援する方法をとっていきたい。

次回もこんな機会があれば、ぜひ参加したい。(滋賀・Mさん)

・本日行った A クイックからブロックを取り入れてのオープン攻撃へ流れという構成は、生徒にもわかりやすく伝わるのではないかと感じた。今回感じたことは、技術習得によって内容に差が生じやすいのではないかとということだ。特にセッターのオープンの精度は、課題ではないかと感じた。“時間”的コンビではなく、あげやすい平行にする“場所”のコンビが見ていてわかりやすいのではと感じた。ありがとうございました。(熊本・Sさん)

・私は、エアロビクスは大学で経験したことはありましたが、ダンスは一度も経験したことがありません。その中で、今回の分科会でダンスに取り組む上での授業の進め方や考え方を提供していただき、様々なことを感じさせていただきました。ありがとうございました。(滋賀・Mさん)

・教え方は人によっていろいろで、それぞれにこだわりが強かったり、個性があることを改めて実感しました。

自分の疑問も少し解消された気分にもなり、本当によい機会でした。

ダンスは自分が思っているよりも深く、先生方が話しているのをうなずきながら聞けてよかったです。(兵庫・Oさん)

・私は大学で創作ダンスを教わって、新聞紙になりきったり、スポーツを表現したり、何かになりきる、表現することが創作ダンスだと思っていましたが、先生方のお話を聞いて、ダンスとは骨や筋肉、身体の仕組みを知り、気づき、動かすという全然違ったものだと知り、驚きました。そういうものを授業にどう生かすか、取り入れるかは、今後の課題というか、むずかしいなと感じました。(兵庫・Iさん)